

病虫害発生予察情報

令和7年7月31日

病虫害発生予察情報（飛騨地域） 8月予報

気象は昨年に増す高温多湿で推移していますが、近年の8月の天気は不安定で長雨や不意の降雨が予想されます。水稻のいもち病や野菜類の灰色かび病等に注意しましょう。

高温乾燥が続く場合は、水稻の斑点米カメムシ類、果樹のカメムシ類、ハダニ類、および野菜のチョウ目害虫等の害虫の増加に注意し、早めの防除を行って下さい。

【水 稲】 葉いもちの発生は少ないものの、出穂期以降の防除を怠ると穂いもちが発生することは稀ではありません。必ず予防防除しましょう。

斑点米カメムシ類注意報を7月18日に発表しています。

【果 樹】 カメモシ類の予察灯誘殺数は平年の約 10 倍です。山沿いの園地等、被害が出やすい場所をよく観察し、多くの飛来を確認した時期を逃さず防除しましょう。

リンゴの斑点落葉病や褐斑病等の感染拡大を予防し、高温乾燥が続く場合には、ハダニ類の急増に注意しましょう。

【野菜】 フェロモントラップへのオオタバコガの誘殺数が多くなっています。食入前の発生初期に防除を実施してください。トマトでは「トマトキバガ」への注意が必要です。ホウレンソウでは、高温期はアブラムシの対策、気温が低下するとホウレンソウケナガコナダニやべと病の対策が重要となります。

○主な病害虫の発生状況及び今後の予測（８月） 防除時期の目安

[illegible]

病害虫名 発生量		発生消長の一例・防除時期の目安									防除上の注意事項等
		8月						9月			
		1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬	1半旬	2半旬	3半旬	
ホウレンソウ	べと病										・盆過ぎ以降は低温と多湿の発生条件が重ならないよう管理する。 ・8月中の発生は稀ではあるが、感受性品種では1作1回程度の防除に努める。
	発生量: やや少										
	ケナガコナダニ										・餌となる有機物の多用は避ける。 ・盆過ぎ以降の気温の低下とともに被害の増加がみられる。 ・発生予察は難しいので、定期防除を心がける。
	発生量: やや少										
トマト	灰色かび病										・定期的に予防剤を散布する。 ・葉先枯部、花ガラ、および罹病果の除去を徹底する。 ・収穫ピークと重なって、葉先枯れ除去ができていない場合は被害が拡大しやすい。
	発生量: 並										
	すすかび病										・樹勢低下や高温・多湿で発生しやすい。 ・定期的に予防剤を散布する。 ・栽培期間終了後の資材消毒は、次年度の対策に有効である。
	発生量: やや少										
野菜全般	タバコガ類										・防虫ネットで被覆していても、隙間から侵入することがある。幼虫を確認したら防除を実施する。 ・露地栽培では、幼虫発生初期に防除を実施する。
	発生量: 多										
	アブラムシ類										・高温乾燥で多発するが、気温が高すぎると減少する。 ・よく観察し、少発生の段階で農薬散布を実施する。 ・ハクサイやキャベツ等秋野菜では、定植時の粒剤散布により、本虫の発生を1か月間程度抑制できる。
	発生量: 並										

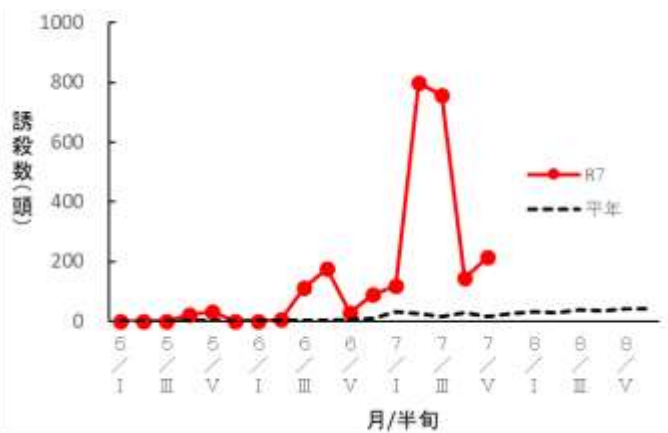


図1 予察灯によるチャバネアオカメシ誘殺数の推移
(高山市国府町)

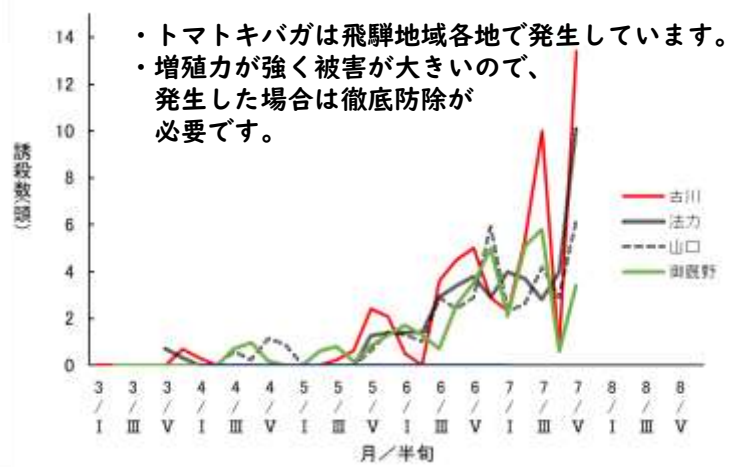


図2 フェロモントラップによるトマトキバガ誘殺数の推移
(高山市・飛騨市・下呂市)

東海地方1か月予報(7/26~8/25) 名古屋地方气象台 7月25日発表

向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため高いでしょう。期間の前半は、気温がかなり高くなる可能性があります。太平洋高気圧に覆われやすい時期があるため、向こう1か月の日照時間は平年並が多いでしょう。

岐阜県病害虫防除所では、この他に病害虫の詳細な調査データをホームページにて公開しています。(トップページQRコード→)

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/2934.html>

飛騨支所 〒506-8688 高山市上岡本町 7-468

TEL (0577) 33-1111(内線 245) FAX (0577) 34-2706



トップページ



BLASTAM
(いもち病情報)

6~8月は「農薬危害防止期間」です。農薬ラベルの表示事項の遵守と周辺への飛散防止を徹底しましょう。